

資源を有効に活用し、環境にやさしい「循環型社会」をつくるには、リデュース（ごみを減らす）、リユース（繰り返し使う）、リサイクル（再生して利用する）の「3R（スリーアール）」が大切です。

山口県では、家庭や事業所から出される一般ごみのリサイクル率が年々伸びています。平成22（2010）年度には、全国平均の20.8%を大きく上回り、37.1%で全国トップになりました。

これは、平成14（2002）年度から、全国で初めて、県内全域で「燃えるごみ」を焼却した後に残った灰を1カ所に集め、セメント原料として再生利用する取り組みにより、リサイクル率が上昇したものです。

一方、県民1人1日当たりのごみの総排出量は、1242グラムと、あまり減っていません。

身近なところでは、まだ食べられるのに捨てられている「食品ロス」の問題があります。飲食店での食べ残しや期限切れにより売れなくなった在庫。家庭では、ジャガイモの皮を厚くむき過ぎたりすることも食品ロスにつながります。

県内の食品ごみの3分の1に当たる年間約6万トンが食品ロス量につながります。1人1日換算では約100グラム（おにぎり約1個分）を食べずに捨てていることとなります。もったいないですね！

今月は「循環型社会形成推進月間」です。物を大事にして長く使うことや、残さず食べること、マイバッグを使うことなど、一人一人の心がけでごみは減らせます。できることから始めてみませんか。

